神奈川・宇津宮辻子幕府跡

1　所在地　神奈川県鎌倉市小町二丁目
2　調査期間　一九九八年（平10）六月
3　発掘機関　宇津宮辻子幕府跡発掘調査団
4　調査担当者　原　廣志
5　遺跡の種類　官衙跡
6　遺跡の年代　中世（一三世紀～一四世紀前半）、近世
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は、ＪＲ鎌倉駅の北東方約四七〇ｍ、鶴岡八幡宮前面の若宮大路東側域で、中世鎌倉の中枢部に所在している。県遺跡台帳による「宇津宮辻子幕府跡」の範囲は、東西が若宮大路と小町大路に挟まれた地域で、南辺を宇津宮稲荷神社に至る露路、北辺を清川病院北側の道路とする、東西約一九〇ｍ南北一六〇ｍ余りの長方形区画である。調査地点はこのうち現小町大路に面した北東隅の一角に所在する。本遺跡北隣には執権北条泰時・時頼の正邸とも、若宮大路の幕府の所在地ともいわれる「北条小町邸跡」の遺跡が位置する。幕府は嘉禄元年（一二二五）泰時のとき、大倉（八幡宮東側・現清泉小学校付近）から宇津宮辻子に移り、その後、嘉禎二年（一二三六）に若宮大路「東頬」へ移転したのが若宮幕府である。

（横須賀）

中世の遺構は、道路・溝・井戸・土留状遺構などである。特に鎌倉時代前期～末期にかけての小町大路の西側溝にあたる木組・薬研形の溝（溝一・三・四）と、鎌倉時代後期の木組南北溝（溝二）が宇津宮辻子幕府跡と推定される地域において初めて確認された。木簡の出土した溝二は、現小町大路の西約一二ｍに位置する若宮大路と平行した木組構造で、規模は幅二・一ｍ深さ一ｍ以上を測り、土台や束柱などの木材が良好な状態で確認された。木簡はこの溝底から出土したものである。溝二は方向や規模、その時期からみて、若宮大路御所（幕府）または北条小町邸の外郭溝（堀）の一部である可能性がある。

8　木簡の釈文・内容

(1)

「　　宗□〔近カ〕
三丈　□〔せカ〕きのやまの□□。」

303×50×6　011

文字は二行書きで左行下部に釘穴らしき小孔があり、そのために

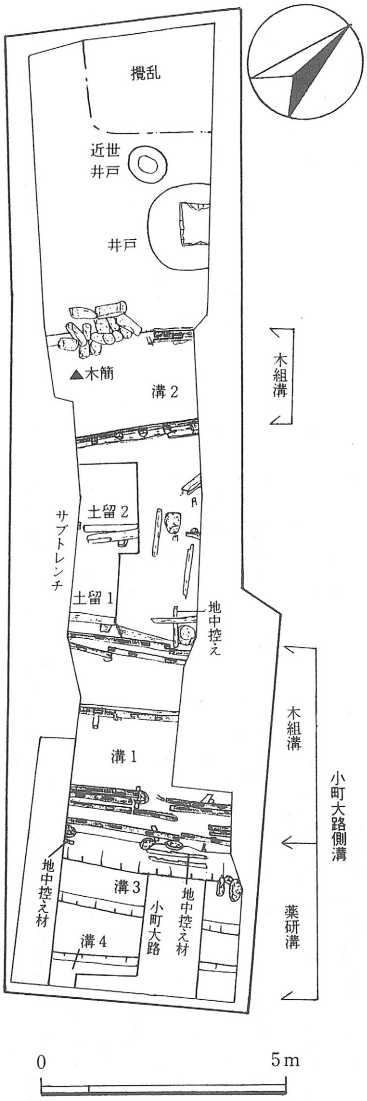
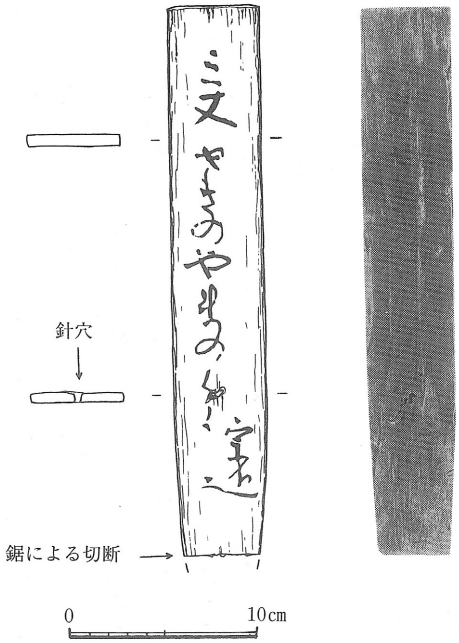
表面が荒れて墨痕が薄くなり判読しづらい。

この木簡は長さと人名を記しているが、若宮大路両側溝の出土例（本誌第七・一八・一九号）と同じく、溝の普請を幕府が御家人たちに課役（御家人役）として割り当てた工事区間の表示札と推定され、若宮大路以外で発見されたのは本例が初めてである。そしてそれらの事例から判断すると、当初は上端と左右両側面を削って調整し一端を尖らせた形態であり、下端の刃（鋸か）を入れた切断痕は二次的なものと考えられる。樹種は杉である。

9　関係文献

神奈川県考古学会「鎌倉市宇津宮辻子幕府跡」（『第二二回神奈川県遺跡調査・研究発表会　発表要旨』一九九八年）

（原　廣志）



遺構図